

# 小・中・高の教師が共に語り オピニオンをつくる

## 「Teachers' cafe」第2回ワークショップ報告

座談会でも語られていたように、今ある課題や今後起こり得る課題を把握し、その解決策を考えるためには、生徒だけでなく、教師にも対話が必要だろう。そうした場の1つとして、ベネッセ教育総合研究所は、学校種を超えて教師が教育について語り合う「Teachers' cafe」を主催。今回は、その第2回の模様を報告する。

### 「テストがなかったら」を前提にして、教育の根本に迫る

第1回のワークショップの様子は、本誌2014年2月号で報告した。第2回は、第1回の参加者に加え、20〜60代の幅広い年代の小・中高の教師27人が全国から集まった。今回、議論をより深めるため、自己紹介後、第1回のオピニオンを書いた模造紙を掲示し、前回参加者によるポスターセッションを行い、内容の共有を図った。更に、ベネッセ教育総合研究所の研究員が、子ども学習意識調査の結果や今後100

年の世界・日本の動向を踏まえた社会環境の変化予測を報告。子どもはどんな社会を生きていくことになるのか、その時に求められる力は何かを思い描くための情報を伝えた。

議論の進め方は、今回もワールドカフェ形式を採用。まず、小・中・高の教師が混合のグループをつくり、「テストや受験がなかったら、子どもに何を身に付けさせたいか」をテーマに語り合った。グループを2回替えながら、地域も学校種も年齢も役職も違う教師の思いを聞き、視野を広げていった。「テストや受験がない」という前提に対しては、「そんなことを考えたこともなかった」といっ

た声も聞かれたが、「評価がなければ何を教えたいか」「社会で生きるにはどんな力が必要なのか」など教育の根本へと議論が深まっていった。

メインは、オピニオンづくりだ。課題意識が近い者でチームを組み、「12年間で身に付けさせたい力を小・中高でどのように教えるか」をテーマに議論をまとめた。チームで用いる言葉は違うが、「社会を生き抜くためにどんな力を付けさせたいか」「そのために教師がすべきことは何か」という課題は共通しており、教師たちの根底に流れる熱い思いは学校種を超えて同じだと確認できた。

また、後日、ワークショップを振

り返るきっかけとして、チームの代表の先生にオピニオンの内容を整理したレポートの提出を依頼した。

日々の指導で忙しい教師にとって、学校種や立場を超えて、教育について熱く語る機会に限られているようだ。参加者からは、「貴重な経験が出来た」「新しい知見を得た」といった声が聞かれた。また、第2回ではベネッセコーポレーションの社員も議論に参加することで、学校現場への理解を深めることが出来た。今後も「Teachers' cafe」のような機会を持ち、学校種や地域を超えて教師たちをつなぎ、共に学校教育について考えていきたい。

## 第2回ワークショップ概要

- ◎目的 小学校、中学校、高校の教師たちが率直に語り合い、「12年間で何をどのように教えるか？」を共に考え、現場教師発のオピニオンとしてウェブサイトなどを通じて発信すること
- ◎日時 2014年2月1日(土) 13:00～18:30
- ◎参加者 全国の教師27人(小学校10人、中学校8人、高校・大学9人)
- ◎募集方法 『VIEW21』小学版・中学版・高校版の各読者モニターへのご案内など
- ◎会場 (株)ベネッセコーポレーション新宿オフィス
- ◎主催 ベネッセ教育総合研究所「Teachers' cafe」事務局
- ◎企画運営協力・当日ファシリテート 與良(よら) 昌浩氏(株式会社もくてき)、宮崎圭介氏(株式会社スコラ・コンサルト)

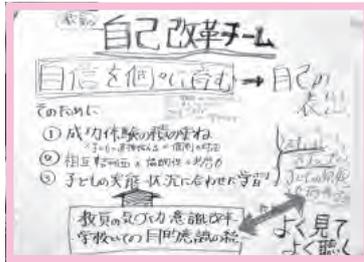
## ワークショップの流れ

- 13:00 オリエンテーション、自己紹介
- 13:40 前回の内容を共有 第1回参加者によるポスターセッションを行い、前回の内容の振り返り・共有。
- 13:50 視野を広げる ベネッセ教育総合研究所から、教育を取り巻く社会環境予測について情報を提供。
- 14:00 問題意識を共有する 4人1組となり、ワールドカフェ形式で「テストや受験がなかったら、子どもに何を身に付けさせたいか」をテーマに語り合う。1ラウンド15分で、グループを替えながら3ラウンド。
- 15:10 オピニオンをつくる 「12年間で何をどのように教えるか？」について、課題意識に近い者同士がチームをつくり、オピニオンをまとめる。
- 17:00 発表 9チームがそれぞれのオピニオンを発表。
- 17:40 まとめ

## 各チームのオピニオン \*全チームのオピニオンはウェブサイトをご参照ください

## テーマ・12年間で身に付けさせたい力を、小・中・高でどう教える(育む)か

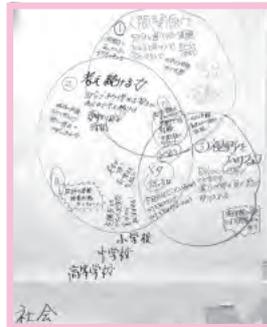
## チーム「教員の自己改革」



◎児童・生徒と接する教師自身の教育観の改革に焦点を当て、議論を深めていきました。小学校・中学校・高校と、児童・生徒の発達段階が

それぞれ異なっている、見るべき指導のポイントには共通点も多いはず。「連携」の意味を、いま一度問い直しました。

## チーム「協力」



◎小・中・高が共通して取り組むべき指導の形として、「子どもが『夢中になれる時間と場所』をつくる」「安心して失敗できる環境(仲間と空間)をつくる」「『見通し』と『振り返り』を通して自己理解を深め、子どもの『メタ認知能力』を育む」の3点を挙げました。

これらを実現するためにも、子ども参加型のアクティブラーニングへの転換が必要だと提言しています。

## 参加した教師たちからの意見・感想

- ・学校種が異なる先生と話すことによって、「学校教育ですべき根本」が見えてくるのだと感じます。その根本を、行事、教科学習、総合的な学習の時間など、教育活動に沿って考えていきたい。(小学校/北海道)
- ・他の学校種、他地域の先生方と話し合いができ、共通するものがたくさんあると分かった。教育についてこんなに熱く語る機会は今までなかったのだ、とても有意義だった。(小学校/秋田県)
- ・先生方との前向きな議論を通して、自分にはない、新しい知見を得ることが

- 出来た。「子どもへの教育」ということで、私たちは同志だと感じました。(中学校/新潟県)
- ・前回とテーマの関連性が高かったので、内容を深化できた。もし、テーマが変わったとしても、学校種・地域の異なる教員が集まって熟議し、オピニオンづくりをまたやりたい。(中学校/愛媛県)
- ・今後の社会環境の変化の予測を聞き、50年後、現在の学校制度があるのかどうかを考えた。存続させることを考えるのではなく、変化を考えなければいけないと強く思った。他の学校種の先

- 生方から得られた気付きは多く、教科指導の改善だけでなく「学校」を考える上で、とても有意義だった。(高校/宮城県)
- ・100年という長いスパンで日本を見るという視点が面白く、非常に興味を持った。一般企業や行政の方も参加できるようにすると、具体的な話が出るだろう。今後に期待したい。(高校/三重県)
- ・いろいろな意見を認め合いながら、時間内にまとめる作業は緊張感もあったが、とても達成感があった。(高校/岡山県)

## Teachers' cafe 2014 開催決定

他の学校種の先生方とのワークショップを通して、長いスパンで教育について議論を深めます。詳しい内容や応募方法は下記ウェブサイトをご覧ください。

◎次回開催についてのご案内や当日の様子の動画は、ウェブサイトでご覧いただけます

Teachers' cafe ベネッセ

で 検索

<http://berd.benesse.jp/tcafe/>

7/26(土) 東京都新宿  
8/9(土) 福岡県博多

参加  
無料